

# 2024年 地域連携推進会議 議事録

日時	2024年12月18日	10:00～11:30	場所	ララ安倉中
出席者	・宝塚市基幹相談支援センター:3名 ・協議会代表:1名・利用者さん代表:1名・利用者さんのご家族代表:1名 ・地域関係者の方:1名・福祉に知見のある方:1名・ララ安倉中:辻			
議題	1 利用者さんの日常の様子を紹介 2 GHの運営状況(スタッフさんの一日の流れ) 3 現在のGHの悩み:利用者さんに対して過度の支援をしてしまう 4 利用者さんやご家族さんからご意見や改善点をお聞かせください 5 他の方からのご意見や改善点をお聞かせください			
	①挨拶と会議の目的を説明 ②参加者の自己紹介 ③議題と内容の詳細の説明及び質疑応答 1. 利用者さんの1日の活動の様子として、障害種別の利用者さんの人数、ホームでの生活、日中活動先、ホームのルールを簡単に説明する。 現在危惧している事として、利用者さんの高齢化が進んでいることで高齢者サービスとの併用や切り替えのタイミングの難しさについて説明をする。 2. スタッフさんの勤務体制および、役割について説明する。 3. 職員さんが過度の支援をすることで、利用者さんと共依存になっていることに対して、参加者の方に意見を求める。  ■協議会代表の方からの質問:職員さんは研修を受けているか? <input type="checkbox"/> 研修は受けているが本人が過度の支援をしている意識がなく、寧ろ自分がしていることは良いことだと思い込み、トラブルを起こしている意識がない。  ■地域関係者の方からの提案:優しいからこそ共依存してしまうので、最終的な目的は何かを常に管理者と職員さんで話し合い、必要であればその利用者さんと距離を放してはどうか? <input type="checkbox"/> 常々職員さんとお話はしているが、本人に自覚や変えようという意思がない限り、他人からどれだけ伝えようが変わることがないのが現状である。 また、特に弊社では担当を決めているわけではないが、その職員さんが			

議事

ターゲットを見つけて過度の支援を行い、その利用者さんが居なくなるとまた新しいターゲットを見つけて新しいトラブルを引き起こす。

結論としては、出来ないこと(否定的)な話をしても問題解決にはならないので肯定的に物事を捉え、職員さんが理解してもらえるまで都度話し合いを続けていく。

■利用者さんからの意見:スタッフさんの部屋が1階にあるため、1階にスタッフさんが常駐していることが多いので1階の方が相談しやすい環境なのはうらやましい半面、職員さんの目が届きやすいので2階の方が自由度が高かったり、相談しやすい環境だと依存しやすいのではと思うので、現状の方が良いと思っている。

■利用者さんのご家族さんの質問:利用者であるお子さんに湿布を貼って欲しいが、医療行為にあたるので湿布を貼ることは出来ないと聞いているが、どうしても対応は出来ないのか？

また、出来ることと出来ないところの線引きを知りたい。

□湿布を貼る支援に関しては、基本的に有資格者が対応するようにはなっているが、全ての職員さんが見守りを兼ねて支援を行っている。

本人がめんどくさがり湿布を貼りたくないときに、職員さんがしてくれないと理由をつけてしていないことがある。

今後も、有資格者が中心となり対応しながら、出来る限りの支援は続ける。

■福祉に知見のある方からの質問:利用者さん毎のスケジュールはどの様に管理しているのか？

□利用者さん毎に予定を書き込んだカレンダーを貰い、グループラインで共有しながら、紙媒体の予定表は全て職員室に貼って管理している。

■地域関係者の方からの提案:フードシェアリングの機会がある

フードロスと物価高騰による食材費の悩みの双方の解決方法につながる良い案を聞けたので、今後もそちらを活用させてもらう。

④最後に改めて集まり頂いたことへのお礼と来年の開催の説明

■ 今回の会議の感想

初めてのことで不慣れなこともありましたが、今回とても勉強になりました。

互いに良い意見交換も出来、来年も引き続き、会議の場を設けて  
意見交換が出来たらと考えています。